

IoTとは？

1. IoTとは？

IoTとは、Internet of Things（モノのインターネット）の略称です。

手に取ることのできる現実世界のモノがインターネットに接続され、何かを操作したり、情報を交換したり、データを分析したりする仕組みをIoTと呼びます。

本来はインターネットにつながっていなかった物が、IoTにより新しい役割を担ったり、今まで以上の働きをするようになるのです。私たちが触れることのできるあらゆるモノがIoTの対象になります。

以下にほんの一例を挙げてみます。

中には「こんなものまでインターネットに繋がってしまうの？」と思うようなものも含まれます。

- ・クルマ
- ・メガネ
- ・エアコン
- ・自動販売機
- ・靴や衣服
- ・冷蔵庫や電子レンジなどの家電

なお、人によっては「あらゆる物体がインターネットに接続する社会」のことをIoTと呼んだりもします。その定義はやや曖昧なのです。

簡単な例：自動販売機の補充

例えば「自動販売機の補充」をIoTにより効率化してみましょう。

定期的に、トラックで担当者が循環に来て、無くなった飲み物を補充します。当然ですが、よく購入される種類とされない種類があります。

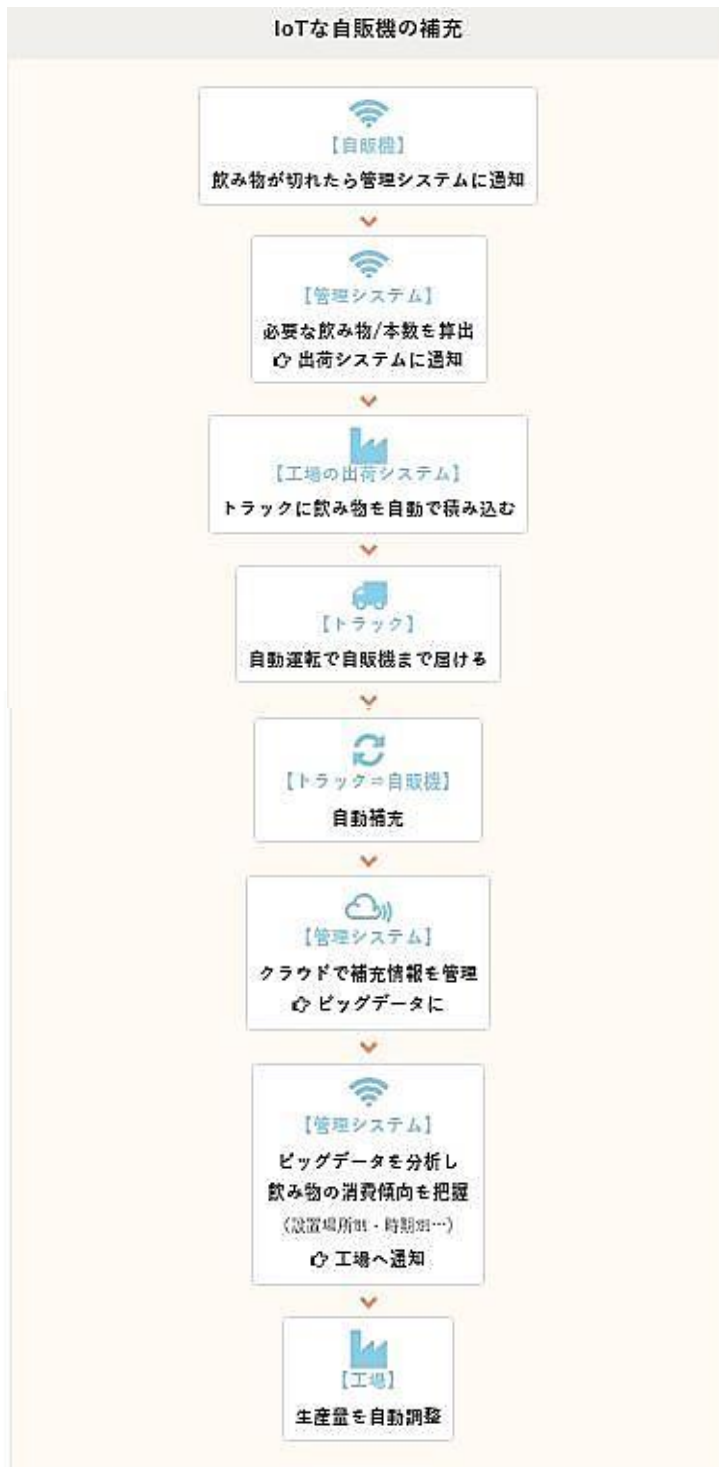
1週間に1回補充される自動販売機では、一部の人気の飲み物が補充後2日で売り切れになってしまい、その後5日間は購入することができない、なんてことも起こってしまいます。

IoTだと自動販売機がインターネットに接続されます。そして、管理会社のパソコンや担当者のスマホと常につながりやすくなるのです。

飲み物が無くなったら、自動販売機が「コーラがなくなったよー！」とネットワーク経由で担当者のスマホに連絡を送る、というようなことができるのです。つまり、飲み物が切れたとき（切れそうなとき）にのみ補充ができるようになるわけです。この方が効率的ですね。

先の例はIoTの初期段階です。さらに物と物が繋がれば、人が関与しなくても「自動で補充される仕組み」や「生産量を自動調整される仕組み」が出来上がるのです。物と物が繋がる状態は、M2M（マシン to マシン）と呼ばれたりします。

M2Mにより、自販機の補充の例をより進化させてみます。



技術的にまだ難しい部分がありますが、このように様々な物がインターネットで繋がりが合い、効率的に何かを生産したり、生活を便利にするような仕組み=IoTなのです。

当日はいろいろな事例を紹介して、IoT の概念を理解して頂ければと思っています。

本資料は「IoT とは」で検索した記事から抜粋して作りました。

(終)